

視覚的形態に関する比較研究

～福井、長浜、大垣 3 例を加えて～

福井工業大学 正会員 ○内村 雄二

1.目的

都市は、歴史的な経緯を反映してさまざまな形態をしている。日本の特性である城下町は、地域の多様性と個性を重視する現代社会において重要な意味を持っている。本研究は、既往研究¹⁾を継承し上記 3 例を加え、城下町の共通点・差異をアンケートによる意識調査および現地踏査から導かれた視覚的形態図により、城下町の類型等の考察を行うことを目的とする。なお城に関する歴史的資源を整理し、評価基準の明確化に努めた。

2.方法

(1)アンケート調査

聞き取りによる意識調査を 3 都市の地元住民や来訪客を対象に各都市 100 件ずつ実施した。調査範囲を 4 箇所に分け、曜日(土、日)を合わせ 2 日にかけて行った。

(2)現地踏査

現地を観察し、それぞれの共通点、差異を視覚的形態図として取りまとめた。パス・ノード・ランドマーク等の該当写真を収集した。

(3)資源調査

市役所ホームページ、市・地域作成の資料、城・城下町に関する書物により城下町に関する歴史的資源を調べカルテにした。

3.調査結果

(1)意識調査

調査内容は、来た目的、城下町の魅力、まちの景観、どの辺りに行ったか、まちの好きなところ・気に入っている所・紹介したい所、改善点、また訪れたいか、往来状況を質問した。

① 来訪目的

大垣市はショッピング(43%)、長浜市は観光(51%)、福井市は通勤・通学(29%)が、それぞれ最も高い来訪目的であった(その他目的を除く)。

② 城下町の魅力

魅力ある(非常に魅力ある、魅力ある)と回答した人は大垣市(46%)、長浜市(78%)、福井市(41%)という結果が出た。長浜市は、全体的に魅力あると回答した人は多いが、10 代の学生からは、魅力が無いという回答もみられた。大垣市と福井市は、近似結果となったが、福井市は 30 代までの人に支持されて

いないという差異がみられた。

③ まちの景観評価

良い(非常に良い・良い)と答えた人は大垣市(39%)、長浜市(66%)、福井市(29%)となった。大垣市は県内外で見ると、県外の方が評価は高かった。長浜市は、全体的に評価は高いものの非常に良いと答えた人は少なかった。福井市の評価は普通という回答が多かったが、若者からの評価は低い。

④ どの辺りに行ったか

大垣市は 77 人の回答で大型ショッピングモールが 31 件となった。長浜市は 72 人の回答で黒壁スクエア、長浜城共に 17 件と二分される。福井市は 62 人の回答で駅前 16 件だった。

⑤ まちの好きなところ

大垣市は大垣城、船町・水門川等、長浜市は黒壁スクエア、長浜城、大通寺等、福井市は養浩館庭園、駅前周辺、福井城址等の意見が挙げられた。

⑥ 改善点

大垣市は駅前通りや商店街の活性化等、長浜市は道路の舗装等、福井市は店の増加や駅前の再開発等の意見が挙げられた。

⑦ また訪れたいか

3 都市ともに機会があれば来たいという回答が多かった。

⑧ 往来状況

城を中心とした往来(ルート)を尋ねた。大垣市は城に隣接する大垣公園からの往来が多く、長浜市は自宅から来る人が多かった。福井市は城(県庁)と駅の往来が目立った。

⑨ まとめ

1) 大垣市

城下町の魅力、景観評価共に、県外からの評価が高かった。

2) 長浜市

景観評価は高い評価を受けたが、城下町の魅力では、非常に魅力がある・非常に良いという意見が比較的少なかった。

3) 福井市

城下町の魅力は回答にばらつきは出たが、景観評価では普通と答えた人の意見が多かった。

(2)視覚的形態

現地踏査(観察)、および意識調査を基にケビン・リンチのイメージ・アビリティ(都市のわかりやすさ)を構成する5つの要素であるパス・エッジ・ノード・ディストリクト・ランドマークを用いて視覚的形態図を作成した。

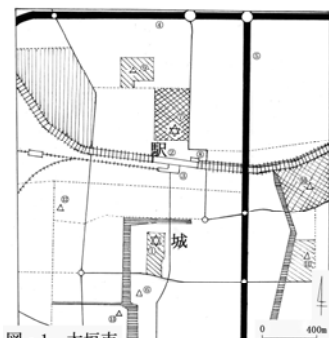


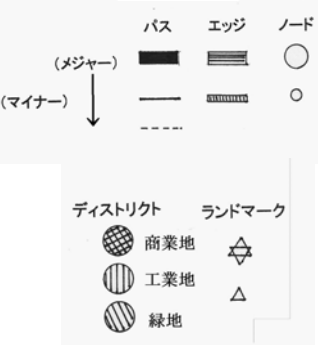
図-1 大垣市



図-2 長浜市



図-3 福井市



大垣市のメジャーパスは国道21号と国道258号であり、他の都市と繋がる重要な幹線である。ランドマークは大型ショッピングモール等が挙げられる(図-1)。長浜市のメジャーパスは国道8号と駅前通りとなり、ディストリクトは北国街道沿いの旧来からの商業地(黒壁スクウェア)がある。ランドマークは長浜城である(図-2)。福井市のメジャーパスはフェニックス通りと中央通りで、ランドマークは城(県庁)と足羽山があげられる。商業系のディストリクトが、駅前に形成されている(図-3)。

(3)城を中心とした資源カルテ

城、城下町を類型化する場合、評価軸を高めるために資源を簡易に数値化できるようにカルテ化した。カルテは、城の存在として天守閣、本丸の有無、城の保存状態として建立当時の城址、内堀、外堀等に対する現存割合とした。城下町の保存状態として町屋保全・修景、商家、名勝、祭りに着目した。大垣市は城の復元、内外堀の一部現存、住吉燈台がある。長浜市は城の資料が残っておらず1983年に模擬復元された。北国街道沿いに商家の町並み(城下町)が残っている。福井市は石垣・内堀が現存し、城北近くに養浩館庭園があり周辺は歴史のみち整備事業を行っている。

(4)フィジカル面による3都市の類型化

城の存在感と城の保存状態は、資源カルテデータを遺構・現況で数値化した。城下町は各都市同じ範囲上で区切り、文化財指定数、町屋保全・修景は、

当該の事業数で調べた。図4のように大垣市と福井市は同じ様な形になり、三角形の面積が狭い。この面積は城下町としての総合的な熟度と仮定すると、その評価は相対的に長浜市は熟度が高く、大垣市や福井市は低いという見解が得られる。

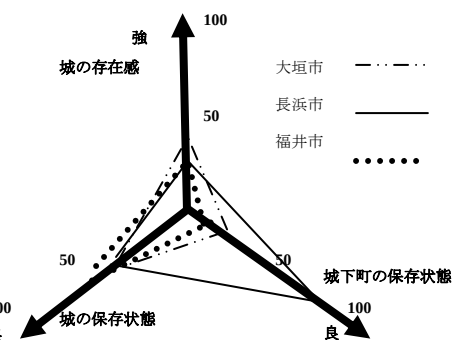


図-4 フィジカル面における類型

(5)その他の類型に関する考察

立地特性と城下町の保存状態としては大垣市、長浜市、福井市ともに、平野部に城下町を形成するため平地立地型とした(図-5)。近代的・歴史的要素の類型としては、大垣市は城下町の要素と近代的な要素が平均的な共存型、長浜市は城下町の要素が多く城下町保守型、福井市は現代的な市街地化が進行し脱城下町型と捉えられる(図-6)。

城下町について

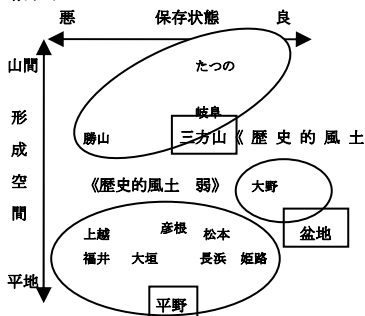


図-5 立地特性と城下町の保存状態の類型

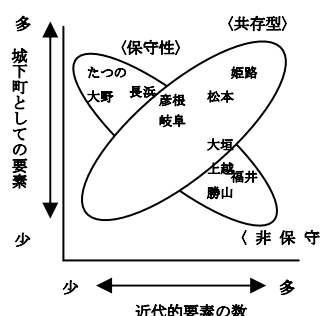


図-6 近代的・歴史的要素の類型

4.まとめと今後の課題

本考察により、大垣市は岐阜市や彦根市のように城下町の要素と近代の都市が物的に共存・拮抗しているタイプ(型)、また長浜市は現代に残る歴史的資源を見ると城下町の保存状態がよく、たつの市に類似しているタイプ、福井市は城がないものの、内堀の現存等が印象を残しているため勝山市のように城下町のイメージに特化するタイプと想定できた。

今後の研究において、次の課題があげられる。

- ①カルテにおける城下町に関する判断基準についての項目を精査し、さらに客観的な指標を探究する。
- ②事例を増やし、より広範な城下町の類型化や記譜(図鑑)化に展開し、まちづくりの一助とする。

参考文献

- 1) 視覚的形態に関する比較研究—城下町 上越・松本・岐阜・姫路を事例に加えて—日本建築学会大会学術講演梗概集 2007年8月号 pp459-460